

# 桐が谷通信

CHUBU GAKUIN UNIVERSITY  
CHUBU GAKUIN COLLEGE

第 6 4 号 2 0 2 1 年 1 2 月 1 0 日

発行 中部学院大学 宗教委員会  
中部学院大学短期大学部

〒501-3993  
岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地 TEL (0575) 24-2211

【マタイによる福音書 1:1~16】

アブラハムの子ダビデの子、イエス・キリストの系図。アブラハムはイサクをもうけ、イサクはヤコブを、ヤコブはユダとその兄弟たちを…… (略)。

## 神の子が身内になった

柳本 伸良 (日本基督教団 華陽教会 本学非常勤講師)



クリスマスと言えば、神の子イエス・キリストの誕生を記念する祝日でした。そのイエス様が誰から生まれて、誰の身内であるか記しているのが、福音書の冒頭に出てくる「系図」です。

一番初めに、イエス様はアブラハムの子孫であることが記されます。アブラハムと言えば、信仰の父として有名です。一方で、アブラハムは神の言うことを信じないで笑った人物でもありました。神を笑った人の身内として、イエス様は生まれてきます。

二番目に、イエス様はダビデの子孫であることが記されます。ダビデと言えば、神と共に歩んだイスラエルの偉大な王として有名です。一方で、ダビデは神の意志に反して、人妻であるバトシェバと不倫した王でもありました。神に背いて不倫した人の身内として、イエス様は生まれてきます。

また、この系図には女性の名前も出てきます。彼女たちは、異教の神々を持ち込むことで嫌われた、異邦人であることが共通しています。最初に出てくるタマルは、自分を捨てようとした夫の姑と子どもを作った女性です。その次のラハブは、イスラエル人がエリコへ侵入するのを手伝った異

邦人の娼婦でした。

三番目のルツは、アブラハムの甥であるロトが、娘たちとの近親相姦で設けた子孫、モアブ人の女性です。ウリヤの妻は、ダビデ王が不倫をした相手でした。系図はさらに、神に従わなかった王や、国を滅亡させてしまった指導者の名前まで記します。イエス様は、取り返しつづかない失敗をしてきた、数多の人の身内として生まれます。

イエス様の正体を説明しようとするこの系図は、清く、正しく、美しい家柄を示すものではありません。むしろ、関わることをためらうような背景を持つ私たちに、神が自ら身内となって、ありえないつながりをもたらした、とんでもない出来事を証ししています。

神を笑ったことがある者、不貞を働いた者、友を死なせてしまった者、体を売って暮らす者、不倫や近親相姦で生まれた者、共同体を壊した者、騙され捨てられ病んだ者、「汚れた者」と言われる者、「汚れた者」と感じる者……イエス様は、そんなあなたの身内です。クリスマスは、あなたのために生まれてきた、あなたの身内の誕生を記念する日でもあるんです。



## メレ・カリキマカ

粕谷 恵美子 (看護学科 教授)

クリスマスというと、懐かしく思い出すがハワイに留学していた時のことです。ハワイの言葉で、“メリークリスマス”を“メレ・カリキマカ”といいます。ハワイでは、11月の感謝祭（アメリカでは一年のうちでもっとも重要なイベントである「Thanks giving Day」）あたりからクリスマス&年末年始までホリデーシーズンと呼ばれています。その期間は、デパートやレストランに行くとき、店員さんやそのほかの人とあいさつするときなど、「Happy Holidays」と声を掛けられ、「Thanks.



Happy holidays to you too」と言葉を交わしあいます。当然とびっきりの笑顔です。

私たち日本人にとってクリスマスのイメージといえば白い息の出る寒い冬で、サンタクロースさんも暖かそうな洋服を着ています。南国のハワイのサンタさんは、特徴的な赤と白の服を脱いでアロハシャツを着ていたり、ズボンの裾を挙げて水遊びをしていたり、サーフボードに乗っていたり、ウクレレを弾いていたりと南国ムードいっぱいのサンタさんです。

私が留学していた時に、偶然にも友人が宣教師としてハワイで生活をしていました。その友人とクリスチャンの仲間たちに、クリスマスイブに、バーベキューパーティに招待されました。食事への感謝の祈りをし、“メレ・カリキマカ”とジュースで乾杯！！クリスマスケーキは特になく、お肉や海鮮、アボガドサラダやポキ（ハワイの伝統料理の1つ）をみんなで楽しくいただいた時間をとても懐かしく思い出します。

## 子どもたちのクリスマス

小木 曾 友 則 (幼児教育学科 助教)

私が保育者として5歳児を担当していた年のクリスマス会のことです。クラスのA君は、朝から浮かない顔をしていました。A君は「サンタクロースさ、僕のプレゼントも持ってきてくれるかな」と言うのです。「どうしてそう思うの」と聞くと、「自分がいい子にしていたかわからない」と教えてくれました。A君には「いつも友達といっぱい遊んで笑っているし、色々なことに挑戦しているから、そんな素敵なおともサンタさんは見ていてくれると思うよ」と伝えました。

クリスマス会が始まり、ハンドベルの演奏や劇が披露された後、会場の照明が消えてサンタクロースが登場しました。子どもたちは驚きと喜びの表情を浮かべました。サンタクロースは、子どもたちのためにプレゼントを用意したと言って去って

いきました。

保育室に戻ると、部屋の中央に大きな箱が置かれており、子どもたちは歓声をあげました。箱には一人ずつ名前が書かれたプレゼントが入っていました。その中にはA君のプレゼントもあります。保育者が「よかったね、A君」と言って渡すと、受け取ったA君はテラスに駆けて行って、空に向かって大声で「おーい、サンタさーん！ありがとー！メリークリスマス！」と叫んでいました。

A君は、自分が思ういい子としての行動だけでなく、そうではない行動もしていたと考えていたのかもしれませんが。サンタクロースからプレゼントをもらったことで、「どんな自分も認めてもらえた」という喜びを感じたことなのでしょう。子ども

たちのクリスマスは、子どもならではの感じ方で、家族や保育者だけでなく、目には見えないけれどいつも自分を見守り、受け入れてくれる存在がいるということを知る素敵な時間になるのでしょうか。私たちも、子どもの心の動かし方に学び、自分を

見守ってくれている存在に感謝できるクリスマスを過ごせるといいですね。



## 7人の美味しいクリスマス

東海林 沙貴 (スポーツ健康科学科 助教)

「上のベーコンなら食べていいよ!」と、ソフィーがオープンから出したのはこんがり焼けた一羽のターキー。「うまいね」とフェデリコとショーンがつまみ食いするのを、ニコラは微笑みながらみている。「カリカリで美味しいだろうね」。もちろん、私も一緒にぱくり。ターキーに脂を染み込ませた後のベーコンは、もうお役御免というわけ、ふむふむ、なるほど。

お待ちかねのディナータイムがやってきた。ターキーはグレービーソースとお皿に盛られ、その脇には茹でただけ(ターキーへの労力と大違い!)の人参やブラッセルズプラウト(苦い芽キャベツのようなもの)、ローストポテトもある。いつもは1人でマーマイトトーストを食べているマットも、今日は一緒に。同じ屋根の下の7人



全員でテーブルを囲んでいることを、私はこっそり喜んだ。

さあ、乾杯! Happy Christmas!

ディナーの終盤にリチャードが取り出したのは、どっしりとしたケーキ。イギリスでは定番のクリスマスプディングだ。“プディング”と言っても、プチっとしたらプルンと出てくる、あれとは大違い。たっぷりのドライフルーツに洋酒が香る、大きな丸いパウンドケーキのような感じ。「これはテスコで買ったやつだから、美味しいかわかんないけどね」と笑いながら、プディングにブランデーをかける。火を近づけると、青い炎がふわっと上がった。ほわんとした気分になったのは、炎のせい、お酒のせい、それとも、みんなとの素敵な時間のおかげだろうか。

私の中の「イギリスのクリスマス」は、美味しく温かい思い出に溢れている。

「2021年度中部学院大学・中部学院大学短期大学部 クリスマス献金」

# Pray for the World!!

今年も主イエス・キリストのご降誕をお祝いするクリスマスの季節がやってきました。クリスマスは、主イエス・キリストがご自身のすべてを人々の幸せのためにささげつくしたことから、私たち自身の一部を少しでも人々の幸せのためにささげ合うことを実践する季節です。

今年の献金は、国内外の災害被災地及び活動団体を継続して覚えたいと思います。皆さん、温かな思いをもってご献金ください。よろしく願いいたします。

**募集期間** 2021年11月27日(土)～12月25日(土)

**献金予定先:** 大災害の被災地のために [日本キリスト教団東北教区放射能問題支援対策室「いずみ」、災害被災地、フィリピン災害被災地]



地域の諸活動のために [野宿生活支援の会・岐阜、岐阜いのちの電話、キリストへの時間、愛知老人コミュニティセンター、あゆみの家、新隣館他]

世界の諸活動のために [ミンダオ子ども図書館(フィリピン)、アハリ・アラブ病院(パレスチナ・ガザ地区)、ジョセフ記念教育基金(スリランカ)]



◎関キャンパスは総務課カウンター、各務原キャンパスは事務室に設置しています。クリスマス献金箱に献金ください。ご協力をよろしくお願いいたします。

## 2021年度 クリスマス礼拝 「天に栄光、ち。に平和」

名古屋学院大学キリスト教センター職員兼チャプレン 柳川真太郎 先生



日 時：12月20日(月) 15:10～16:10

(第4時限の講義は行いません。)

会 場：関キャンパス グレースホール

### ◆プロフィール

柳川 真太郎 (やながわ しんたろう)

1989年、ノンクリスチアンの家庭に生まれる。2007年4月8日受洗(奇しくもお釈迦様の誕生日)。2014年3月、関西学院大学大学院神学研究科前期博士課程修了(ヘブライ語聖書学)。同年4月、日本基督教団名古屋中央教会担任教師。2017年4月より、名古屋学院大学キリスト教センター職員兼チャプレン。妻は曹洞宗の寺出身のノンクリスチアン。雑誌『Ministry』にて「となりの異教徒」連載中。

### ◆クリスマス礼拝の朗読箇所

ルカによる福音書 2章1～20節

『ち。—地球の運動について—』というマンガをご存知でしょうか。一部"グロ注意"ですが、メチャクチャ面白い作品です。読んでことがない方は、12月20日までにぜひ読んでみてください。舞台は15世紀のヨーロッパ、"C教"の正統教義から逸れた思想が異端として弾圧されていた時代です。テーマは「地動説」。地球は静止しており、その周りを太陽や月などの天体が回っているのだと当たり前のように信じられていた社会の中で、密かに地動説を唱える少数の哲学者・天文学者たちが命がけて奮闘するお話です。物語はあくまでフィクションとして描かれているのですが、我々の現実世界においては、結果的に、「コペルニクス的転回」などという言葉が生まれるように、人々の宇宙観が「地球中心」から「太陽中心」へと劇的に転換させられることとなりました。

振り返ってみますと、Cきよ……キリスト教も元々は、ナザレのイエスという一人の人間の誕生とその活動を起点として発生した小さな新興宗教でした。約2000年前のパレスチナに生まれた僅かな信者の共同体はいかにして、約24.4億という信者を抱える世界宗教へと発展していくこととなったのか。もちろん、国家や教会による政治的な企みも大いに影響を及ぼしたわけですが、それ以上に、人々の心を魅了し、社会の中にパラダイムシフトを引き起こすような"何か"があったのだらうと想像します。そしてそれは、天体の動きを実際に宇宙から見たことがないのに「地動説」を信じるようになった人々の心理とも、どこか通ずるところがあるように思うのです。

イエスの誕生の知らせは、はじめに、野宿をしていた羊飼いたちに伝えられました。彼らの頭上には、無数の星が瞬く美しい夜空が広がっていたことでしょう。宇宙の神秘について考えながら、ロマンチック(?)なクリスマス礼拝のひと時をご一緒に過ごしませんか。皆様のご来場をお待ちしております。

